

CONTENTS

自作自演198 .....坂本政信・山内久高・小塩康史 ..... 2

東海とっておきガイド(85) 岐阜編 ..... 山田貴明 ..... 3

第4回 だれもが知ってる建築史のはなし  
図る ..... 溝口正人 ..... 4

フレッシュマンセミナー 参加者レポート ..... 塩田有紀 ..... 6

JIA愛知発 事業委員会 プチ建築教室 紙コップタワーをつくろう! ..... 笹野直之 ..... 7

JIA愛知発 商品PR展示会 2016年新年会と商品PR展示会を開催 ..... 成枝淳子 ..... 7

近畿支部大会報告  
防災は住民参加のまちづくりの入り口 ..... 奥野美樹 ..... 8

▶東北からのメッセージ  
復興の現場を通して見え始めた私たちの社会の課題(前編) ..... 手島浩之 ..... 9

「ARCHITECT」表紙写真「東海の集落」シリーズを振り返って ..... 生津康広 ..... 10

会員のステージ  
米国エリアマネジメント視察に参加して ..... 川本直義 ..... 11

理事会レポート ..... 鳥居久保 ..... 12

東海支部役員会報告 ..... 尾林孝雄 ..... 13

保存情報172 長良川発電所本館、正門、外塀、湯之洞谷水路橋 ..... 鈴木祥司 ..... 14  
高野山真言宗 大福寺 ..... 富田正行 ..... 14

Bulletin Board ..... 15

地域会だより ..... 15

法人協力会通信② (株)エフワンエヌ 中部支社 ..... 成枝淳子 ..... 16

編集後記 ..... 牧ヒデアキ・鈴木賢一 ..... 16

東海の集落 12

暦の上では春だが、この日の白川郷は雪が降りしきり、合掌造りの郷は美しい水墨画の世界だった。豪雪地区であるが今年も雪は少ない。にもかかわらず白川郷を見下ろす展望台には遠くから美しい風景を撮影する何人かのカメラマンが訪れていた。東海地区の世界遺産白川郷は四、五層の大型合掌民家の集落である。この地域の民家は江戸中期までは北陸系の寄棟茅葺住宅が主流だったが、養蚕が盛んになると養蚕スペースを確保するため、大型化、切妻になり合掌造りとなったのが現在の集落風景の起源である。現在白川村萩地区にまとまって合掌造りが残っているが、従来は庄川沿いの谷筋に多く建てられていた。上流にある御母衣ダム建設により約三〇〇戸が湖底に沈み、また、養蚕が廃れると、用をなさなくなった合掌民家は解体され都会の料亭などに売却された。ダム建設による保証金を得た家は便利な近代住宅に建替えられたりして、合掌造りの民家は姿を消していったのである。萩地区はダム建設による補償の対象外であったため、住民は用をなさない大型住宅に不便な生活を余儀なくされたが、伝統家屋保存機運の高まりにより、補助金などの施策によって維持されてきたのである。そして平成七(一九九五)年に世界文化遺産に登録され、年間一〇〇万人を超える観光客を迎える観光集落となった。



30～50年毎の葺替え集落中が協力して役割を分担して行われ、「結」と言われる。結は屋根葺替の他、田植えなど共同や扶助が必要なさまざまな暮らしの場面で機能している

生津康広  
生津建築設計室アーキハウス





坂本 政信 (JIA 愛知)

S設計工房 (豊田市豊栄町4-170 TEL0565-24-1488 FAX0565-24-1678)

## 何とかなるものです!

昨年、昔からの友人と久しぶりに会ったとき、年を重ねたことでの、体の不調、病気、記憶力・やる気の低下などなど、なんだか夢のある話がまったくなく寂しく感じました。

「このままではいかん!!!」と思い立ち、錆び付いた頭の活性、集中力の確認をしようと、宅地建物取引士試験に挑戦! 何とか合格はしたものの、テキストを開いたとたんに睡魔がやってくるわ、前のページで覚えたことが次のページではもう忘れるわで、悪戦苦闘に次ぐ悪戦苦闘! 試験間近は、仕事そっちのけでテキストをにらみ付けていました。ともあれ結果オーライで、頑張ればまだ何とかなる??? と自信が付き、今年も新たな資格試験に挑戦しようと思っています。

また趣味で始めた野菜づくりは数年たちますが、去年は仕事が忙しく、なかなか思うように時間をかけることができず、満足のいく収穫ができない状態だったので、今年は気合を入れ農作業にも精を出すつもりです。何事もあせることなく、ゆっくり、のんびりと仕事も趣味も新たな挑戦ができるよう精進したいものです。



山内 久高 (JIA 愛知)

日建設計 (名古屋市中区栄4-15-32 TEL 052-261-6131 FAX 052-263-9884)

## ある休日

建築は広い見識を持つこと、そのため雑学が大事だと諸先輩から言われたことがある。これまでなかなか休みを取れないでいたが、思い切って2週間ほどの休みを取り、バリ島 (インドネシア) へ行ってきた。どうせなら長期滞在が望みではあったが、これでも私の中では十分によい気分転換となった。

南国の楽園と称されるバリ島は、南半球に位置し、日本とは夏冬が逆で冬でも気温30度近くに達する。きれいな海とマリンスポーツの島のイメージが強かったが、のどかな風景と寺院の多さに驚いた。人々は大変おおらかですべての子どもを宝として大事にし、人口の90%以上がバリ・ヒンドゥーを篤く信仰している。神々の島と呼ばれるゆえんが分かる。

建物に目を向けるとコンクリート造か木造で、中には竹造もあり、寺院は煉瓦積み、民家はコンクリートブロックの外壁、屋根は瓦 (たぶん着色セメント瓦) か藁葺き、内部は土足厳禁の大判などのタイル床にペンキ塗りの壁が一般的のようであった。日本では常識となっている断熱材を使っていない屋根と壁には驚かされる。

のどかな田園風景に幼いころを思い出し、懐かしさを感じた。だが、日本は高度成長期に環境への配慮を置き去りにし、その結果どのようなことになるかを経験している。下水道や道路などのインフラの整備も同時に進めることも重要と感じた。伝統建築を守りつつ環境との調和面でのサステナビリティが図られることを願いつつバリを後にした。心が癒される休日となった。



のどかな田園風景



建築中の藁葺き屋根



### 小塩 康史 (JIA 静岡)

VAN・アーキメディア (藤枝市小石川町1-9-6 TEL 054-645-0817 FAX 054-645-3090)

### 我が家の句会

妻は俳句の会に入会している。そのため暇な時間には投句のため句作りに励んでいるようである。妻とよく出かける車中においても3〜4句読み、どの句が良いか尋ねられる。こちらにも運転に集中しているので聞き流したいのが本音だが答えられないわけにはいかず、「そうだね、2番目の句がいいかな」とすると再度その句を読み上げる。そこで終わればよいがつつい口を出してしまう。すると季語がダブっているとか、それでは川柳かなと反感を買うのである。おそらく車中での妻のしている風景と、運転している私が見ることのできる風景が異なるからであろう。そして妻は定期的に句会にもよく出かけるなど結構俳句漬けになっている。さらに、わが家の数カ所には歳時記とか俳句カレンダーが掛けてある。中でもトイレの壁には正面と側面の2面にも、内ひとつは2〜3年前のものでカレンダーとしての機能はない。それぞれのカレンダーには月ごとに数十句が載っている。この状況では私自身もトイレにいる数分間はどうしても目につき思わず読んでしまう。そして1カ月の内には数句が自然と頭の中に入ってしまう。おかげで季語とか句作りのルールが少し理解できてきたような気がしつつ、17文字の中に言葉巧みに自然観・人生観を表現できるものと感心するこの頃である。

やや早めですがこれから桜の季節に向けてここで一句

花に贅 落花に贅を 尽くしたる

これは残念ながら私の句ではなく記憶に残るとなたかの句である。

## 東海とおきガイド 85 | 岐阜編 |

山田貴明 (デザインボックス)



### 鉄工所迎賓館「郷亭」

岐阜県内第2の都市大垣を中心とした西濃地域は、古くより豊富な地下水に恵まれ、他の地域より比較的規模の大きな会社の産業集積地である。「郷亭」は西濃発祥の会社、郷鉄工所(破碎機などの産業機械の製造会社)の迎賓館として昭和40年代に建てられた数寄屋建築で、現在では、手に入れることが困難な高価な銘木(天然記念物の屋久杉など)をふんだんに利用し、また、名工匠の技を融合させた歴史的価値のある建物である。高価な仕上げ材の中にあって、当時としては新製品で珍しかったと思われるアルミサッシ(現在では何の変哲もない)のガラス戸が堂々と使われているのが、時代の移り変わりを反映していて、私には面白く感じ、ニヤリとさせられ、親近感がある建物である。



所在地：  
不破郡垂井町宮代  
3028番地の6

### 建築と庭を楽しみながらのランチ

『郷亭』は、大垣市より国道21号線を西に車で5〜6分の垂井町に入った左手側、郷鉄工所の隣にある。広い駐車場があり、迎賓館と書かれた大きな門をくぐると、手入れのされた日本庭園と、お屋敷造りの重厚感のある玄関が客を迎えてくれる。現在は保存のためにも一般市民にレストランとして開放されており、県外からの来客にも、ゆったりと庭を見ながら楽しみ、おもてなしのできる数少ない建物である。私が訪れたのは昼時で、ランチメニューとしては「天ぷらそば」「ひつまぶし」や天重など2,000円程度で手軽ではあるが、迎賓館という雰囲気から、高級感を味わうことができ、満足した。夜にはイタリアンのコース料理があるそうで、ライトアップされた庭を見ながらワインが楽しめるそうだ。



レストラン営業時間：  
CAFE 11:30-15:00  
SOBA 11:30-15:00  
(14:00 LO)  
DINNER 17:30-22:00  
(20:00 LO)  
定休日：水曜日  
TEL 0584-71-7744



## 図る

溝口正人 | 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授

私のパソコンの漢字変換ソフトによれば、「図る」とは「いろいろと試みる。くわだてる。意図、企図（着想すること）」とあります。図ることの本質は、企てる「図」を描くことにある。設計の根幹は形を決めることにあり、図ることが必須。日本建築における「図る」「図らない」が、今回のテーマです。

### 古代、どこまで図ったのか

平安京遷都は延暦13(794)年。桓武帝は、何度も工事現場を視察したことが史料に記されています。桓武帝が都の正門である羅城門の工事現場を視察したときに交わした工匠とのやりとりは、賢帝ぶりを示す逸話として説話集に取り上げられています。

造営中の平安京を視察に訪れた桓武帝は、羅城門の前で工匠に門の高さを1尺低くするように言い渡します。そしてすでに瓦は葺かれ壁は塗り終わった羅城門を再び訪れたおり、まだ高い、もう5寸切らせるべきであったと嘆いたとのこと。これを聞いた工匠は、本来の高さ（長岡京に準じてでしょうか）に比べて1尺低くすると低過ぎて見苦しくなるため、5寸だけ低くしたことを白状します。羅城門は間口7間とも9間とも記される間口の大きな楼門で（※図1）、建つのは京の果てで風も強い。強風に対して脆弱な楼阁建築の危険を考えての天皇の指示でした。工匠は、堅固なつくりをさらに5寸切り縮めたのだから大丈夫ですと返答。竣工を優先した桓武帝はそのままの完成を許容します。しかし果たせるかな20年後となる弘仁7(816)年8月、大風で門は倒壊し、桓武帝の危惧は的中します。

次の主人公は保元の乱の原因を生んだ治天の君、鳥羽上皇です。1136(保延2)年、上皇は鳥羽離宮（現在の名神高速京都南インターのあたり）に宇治平等院鳳凰堂を模した勝光明院御堂を造立します。鳳凰堂は、この世の栄華を極めた藤原道長の息子である頼通が別荘のあった宇治の地に自身の美学を込めて造営した阿弥陀堂で、当時「極楽いぶかしくば宇治の御寺をうやまえ」（極楽が信じられなければ鳳凰堂をみなさい）と、至上の評価を受けていたのでした。勝光明院御堂以外でも鳳凰堂が影響を与えた寺院は多い。上皇

はそんな鳳凰堂をまねるべく、わざわざ工匠を宇治に派遣して、寸法をはからせたことが知られています。

ところがそのまま完成したのかといえば、大違い。鳥羽上皇は現場へ足を運び、組み上がった2階の軒下に安置される予定の菩薩像の現物を並べさせて確認します。結果、2階の柱を7寸切り縮め、両翼の廻廊は斗栱（組物）を一段外したのでした。当然、菩薩像は内法で納まらなくなります。上皇の近臣、源師時の日記『長秋記』には、困り果てる周囲の様子が記されて興味深い。

当時は多くの仏像を林立させる行為は「多数作善」の考えに基づく善行です。ただし三十三間堂の果てしない長大さが示すように、建築的にバランスを失った状況も出現する。彩色した高さ4尺の菩薩像32体を2階周囲に並べる勝光明院御堂の原設計は、鳳凰堂を参照しつつも時代の風潮を加味したもので、仏像の設置を優先させた階高でバランスを失った外観だったのでしょうか。そのことを鳥羽上皇はよしとしなかった。しかし組物を外す変更は、建物の根幹に関わる大改変。美に直結するプロポーションの問題とはいえず、工事途中にこのような検討が行われたことは驚きです。

昭和の解体修理によれば、至上の美を誇る鳳凰堂でさえ工事途中の変更が確認されています。古代建築の完成像は予め図として用意されたものではなく、建造過程で現物として可視化される中で醸成されるものであった。最初からは図らないことが、古代の実態であったといえます。設計図書が存在が不可欠な今日との大きな相違です。一方で、古代



図1 | 平安京羅城門復元図（『甦る平安京』より）



図2 | 日光東照宮陽明門（背面）

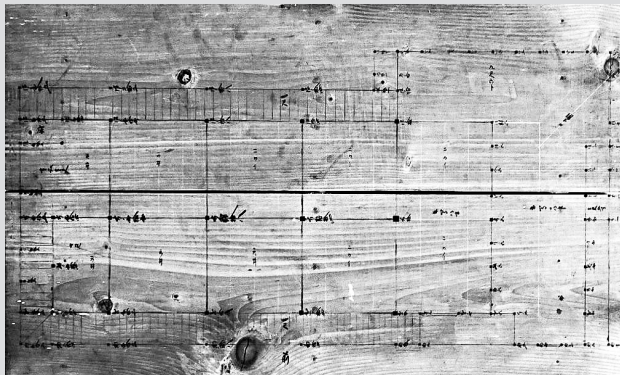


図3 | 某家（明治44年建造）板図 軸部に関する書き込みのみです

においては工匠の感覚で建築の形が決まってきました。この点は、建築家による一品設計の現代建築と異なる。時代を越えた設計の本質ともいえます。

### 近世、どこを図らなかったのか

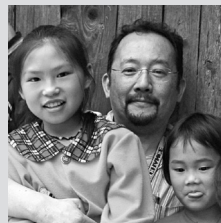
地方の領主が自力をつけた中世以降、地方で生じた多くの建築需要に対して、建築家たる工匠たちがどのように対処したかは興味深い。古代のように建物ごとに形を決めているのは、とても需要に対応できるとは思えません。であれば、決めるべき要素、考える余地をなくせばよいわけです。そのような考えに基づいて生まれたのが木割であるとも理解できる。大量生産の論理に基づいて、創造という不確定要因を排除することで過去の約束された美を再生産するわけです。豊穡な装飾で随一といえる日光の陽明門ですが、装飾要素を除いてみれば思いのほか均整の取れた楼門であることがわかります（※図2）。全体の形は図るべき対象とはなくなりました。つくりながら決めていく古代の大らかさに比

べ、近世の社寺建築がお行儀がよくて窮屈に思われてしまうのも、全体を図ることを排除したからだといえそうです。

では近世ではどこを図ったのか。まさに日光の諸建築が示すように、装飾こそが図るべき対象となった。社寺建築では、美術工芸品と同様に様式技法の観点から時代的な編年がなされていて、近世では絵様や彫物装飾などの形式から建造年代の判定が可能な状態です。図られるべき部分としての装飾は時代の流行を生みだし、そのことで時代を測ることが可能なわけです。部分への関心の高まりから、江戸後半から明治にかけては、パターンブックとしての雛形本の出版が盛んになります。木鼻や欄間、違い棚などの、さまざまなパターンが収録されていて、それらの組み合わせで建物ができあがっていく。

社寺建築では図面は残されていますが、民家などで今日の設計図書にあたるような図面を目にすることは多くはありません。明治時代の某家の調査で見ることができた板図は稀少な事例といえますが（※図3）、墨書きの平面に筋引きで根太や屋根の架かりを書き込んだ簡単なものです。図面が必要ないほどにお決まりの部分があって、直角と水平の組み合わせで軸部を組み上げるならば、この程度の図があれば、あとは決めごとで建物はできあがる。図るべきは見せ場となる意匠。そのひとつが不必要とも思える土間廻りの豪快な梁組であったと考えられる。梁組みの力強さに、素朴さへのノスタルジーを感じるのは、お門違いなのだといえるでしょう。

古代のように、約束されない美がものづくりの現場で生み出される過程は、ドラマティックではありますが今日の生産現場では考えにくい。しかし図ること、すなわち「いろいろと試み、くわだてる」ことに設計の喜びがあるのならば、冷静に失敗を回避すべく、手順どおりに進めた生産の結果として生み出される約束された美に、物足りなさを感じるのも事実。「冷静と情熱のあいだ」こそ、建築における設計のあるべき姿なのかもしれません。



みぞぐち・まさと | 1960年三重県生まれ。名古屋大学卒、同大学院修了。清水建設設計本部、名古屋大学助手を経て現職。専門は日本住宅史、漢族・少数民族住居誌。文科省文化財保護審議会第二専門調査会委員、愛知県文化財保護審議会委員、重要伝統的建造物群保存地区保存審議委員（妻籠、奈良井、足助など）。町並調査（美濃、醒井、犬山、足助、有松、揖斐川など）、近代化遺産調査（秋田、鳥取、愛知）、名古屋城本丸御殿・湖西市新居関の復元などに従事。写真はヤオ族の子どもとともに。



## 刺激し合い、連携しながら視野と活動を広げていく

2015年11月28日、29日の2日間、神戸にて『JIAフレッシュマンセミナー・神戸2015』が開催された。フレッシュマンセミナーとは、入会後3年未満の会員を対象に、JIAの活動を知るとともに、セミナーを通じて仲間と知り合い、今後のJIA活動の出発点となるように企画されたものだ。今回は西日本の会員対象ということで、フェローシップ委員会に所属する4名の先輩会員のリードのもと、東海から沖縄支部までの新会員12名が学びの場を共有した。以下に講義の内容を簡単にまとめる。

### □JIAの活動について

JIA副会長兼近畿支部長 松本敏夫氏

JIAと社会の変遷、求められる建築家像、公益社団法人化後のJIAの活動方針とその解説、そして具体的な取組についてお話し下さった。これまでの建築家像のキーワードが「巨匠、作品、啓蒙」とすると、これからの建築家像は「調停者、運動体、対話」であるとお話印象的だった。

### □建築とまちづくりと社会背景

元JIA九州支部長 鮎川透氏

明治以降現代までの社会（世界/日本）と建築、そしてまちづくりの動きについて、時系列に講義いただいた。普段鮎川氏が大学で講義されている内容とのことだが、すでに実作を積み上げつつある実務者として非常に刺激のお話であった。

### □建築とは哲学することである

前JIA会長 出江寛氏

建築家とはどうあるべきか。美とは何か。文化とは何か。このような数々の普遍的な問いについて、古今東西の哲学者や文人、芸術家の遺した言葉、そして古建築やご自身の作品写真を交え、お話いただいた。それぞれのテーマを端的な言葉で、かつ繰り返さまざまな事例と共に示され、心にずっと染み込んでいく。セミナーのメインである本講義は、2.5時間の当初予定を大幅に超え、翌日午前中まで続く大講演となった。

まず一番印象的だったのは、デザインの作法を具体的にお話されたことだ。われわれが日常メディアで目にする建築作品紹介は、コンセプトとその具現化の概略にとどまる。しかし美しさを目指す建築には形を決めるための作法があるはずで、私の知る限り、その作法は顔を突き合わせる距離感で伝え、議論されるものであった。出江氏の具体的なお話とは独立してすでに10年近く経つ私にとってはとても新鮮な体験であった。

また哲学的思考と建築の作法とが直結していることも非常に興味深かった。それぞれのキーワードは主観的でありながら腑に落ち、またそれらの総体が何かひとまとまりの個性を放つ魅力的な世界観となっている。施主もまたこの日のわれわれのように出江氏の語り引き込まれ、目指す建築を共有したのではな

いかと想像する。

人生に関しても、ざっくばらんに話された。いい人生には毎日楽しく生きることが大事。そのために建築を面白くやるのが重要、とのお話。予定時間を大幅に超え熱く建築について語られ、惜しみなくご自身の思いや経験をお話されるその姿が、建築に携わることの素晴らしさをまさに体現していると感じた。出江氏のように歳を重ねたとき、若い世代の心に響く言葉を投げかけることができたら、それは本当に素晴らしい人生だなと思う。

会場は須磨浦公園内に位置する宿。もともと神戸の迎賓館として1900年代前半に建てられた、大阪湾を見下ろす和洋折衷の味わい深い旅館。夕食後の懇親会では、参加者それぞれが地元でどのように建築に携わっているか、レクチャーの感想などを含め自己紹介を交わした。セミナー解散後、参加者数人で一緒に神戸周辺の建築を巡りながら、見慣れぬ風景を傍らに交わす気軽な会話が、不思議と印象に残った。今後、大会や支部間交流などでの再会と親交を楽しみにしたい。

今回のセミナーでは、それぞれのお話がとても濃くためになったばかりでなく、セミナー全体があるべき建築家像を立体的にあぶり出すような構成となっており、新入会員とはいえ既に実務に携わる身としては自身の活動や考え方を問われるような機会となった。個のスキルの研鑽はもちろん重要だが、刺激し合い連携しながら視野と活動を広げていくことの大切さ、そしてJIAがそのような活動を支える貴重な場であることが理解できた。

ご講義いただいた先生方、フェローシップ委員会の皆さま、セミナーに送り出していただいた東海支部、愛知地域会の皆さまに心より感謝申し上げます。

塩田有紀 |  
塩田有紀建築設計事務所



会場となった宿



スライドを使いながらレクチャー

## 「紙コップタワーをつくろう！」

主催 | (公財)名古屋市教育スポーツ協会  
猪高小学校トワイライトスクール  
日時・場所 | 2015年11月28日(土)  
猪高小学校 トワイライトスクール用の教室  
参加人数 | 27名(1年生:7名、2年生:9名、3年生:8名、4年生:2名、6年生:1名)とその保護者数名  
世話人 | 西村和哉、高木耕一、川口亜稀子、近藤万記子、笹野直之

昨年11月にプチ建築教室を開催。子どもたちに紙コップを使ってタワーづくりに挑戦してもらいました。たくさんの紙コップを積んだり並べたりして、自由に形のおもしろさを考える造形実習をしつつ、実際に紙コップの造形の中に入るといった普段では経験できない空間体験もしてもらいました。

子どもたちは活き活きとした表情で取り組んでくれました。きれいな円柱タイプ、高いタ

ワータイプ、座ると隠れる程度の落ち着きのある低層タイプなどバリエーションもさまざまでした。また、高学年ではより頑丈な積み方を考え出す子もいました。今回は比較的中に入れるタイプを目指す傾向があり、空間体験をするという意味からもよい経験になったのではないかと思います。また、保護者やスクールの先生からも大変好評で、またやって欲しいという声もあがる程でした。

今回の「プチ建築教室」をステップにして、次の企画につなげていきたいと思っています。その際は、ご理解いただける皆様のご協力をお願いします。



教室に立ち並ぶいろいろなタイプの紙コップタワー



高い所は肩車



中に入って空間体験



笹野直之 | 笹野空間設計

## 2016年新年会と商品PR展示会を開催

JIA愛知地域会主催の2016年新年会が、1月15日(金)、中日ビル5階の中日パレスにて開催されました。JIA愛知地域会のご厚意により、新年会の開催と同時に法人協力会員の商品PR展示会を開催させていただきました。

1社あたり90cm×150cmのスペースに合計18社が趣向を凝らした展示を行いました。新年会終了までたいへん熱心に展示をご覧

いただきました。会員の方々の関心も高く、とても有意義な時間を過ごすことができ、新年会商品PR展示会ともに盛会のうちに終えることができました。ご参加いただきました会員・法人協力会員の皆さま、ありがとうございました。

今後も皆さまに有意義な催しが企画、開催される予定です。より多くの会員・法人協力会員の皆さまのご参加をお待ちしております。そ

して皆さまのさらなるご支援、ご協力も御願ひ申し上げます。

出展企業(五十音順):(株)エフワンエヌ、(株)岡村製作所、コイズミ照明(株)、サーマエンジニアリング(株)、三協立山(株)、(株)サンゲツ、ジャパンパイル(株)、総合資格学院、大光電機(株)、(株)田島ルーフィング、中部フローリング(株)、TOTO(株)、パナソニック(株)エコソリューションズ社、(株)ピアレックステクノロジーズ、ホクセイ(株)、(株)ユニオン、(株)LIXILタイル事業部、YKK AP(株)  
—以上18社



新年会風景



展示会の様子



成枝淳子 | (株)エフワンエヌ 中部支店



住民参加の

## 防災はまちづくりの入口



奥野建築事務所 奥野美樹

2015年11月13日(金)、日本聖公会 奈良基督教会にて近畿支部大会が行われた。『まほろばをもとめて』というテーマのもと、関西建築大賞の表彰式と写真家・和田久士氏による基調講演、そして防災シンポジウムの3本立てでプログラムが組まれた。

シンポジウムでは森岡茂夫氏(JIA和歌山災害対策委員長)が講演とそれに引き続いてパネルディスカッションのコーディネートをされた。講演はまずJIA本部の災害対策委員長としての経験を紹介された。JIAの支援活動は1964年新潟地震から始まっている。その後幾度の支援活動から、応急危険度判定や被災認定調査、被災建物の建築相談などの事後支援だけでなく、防災・減災へ導く事前支援の重要性を学びとられ、防災のための指針として、①倒さない、②燃やさない、③逃げ切る、④力を合わせるの4つを掲げた。①は、耐震改修事業への提案である。木造の耐震改修では前進しない事例が各地から報告されている。評点を0.7以上取ると補助金は出るが規模も大きく改修に進みづらい状況を鑑み、耐震シェルターや耐震建具を用いた一部屋補強で取り掛かりやすい改修を促進する。②は、感震ブレーカの提案である。近年の地震時火災の7割が電気起因とされる。特に木造建物密集地域に

有効という。③では、逃げ地図の作成を呼び掛ける。日頃から場所を把握することにより短時間での避難を可能とする。④は、防災協定の締結や仮設住宅用地の確保など事前に行えることを進める提案である。被災後の状況は予見できず何が起こるか分からない。平静時に決めておくことで混乱を回避する狙いである。以上の指針の実行は、住民の参加が不可欠であり、まさに住民+行政+建築家のまちづくりであると説く。

シンポジウムでは香芝市、広陵町、葛城市の首長とNPO法人奈良防災士会の理事が登壇し、それぞれの取り組みを報告された。香芝市では、防災計画を見直しており、計画して、ルールをつくり、手順を知らしめるステップを意識されていた。進めている具体策は防災無線(デジタル)の配備、衛生携帯電話の整備で、計画の実践として救護や炊き出しの訓練を行っている。葛城市では、小中学校の耐震化100%を実現し、集会所が避難所になるようファシリティマネージメントを取り入れている。また、ハザードマップの作成、地区毎の防災訓練を行い、複数の情報網の整備に取り組んでいる。広陵町では、災害に強い人づくり、災害に強い組織づくり、災害に強い地域づくりの3つの柱を掲げていた。防災士の育成を支援することで個々の防災意識を高め、自主

防災組織を推進しそのネットワークをつくる。また、隣町や企業などと防災協定を結び、「点」から「面」の防災組織の構築を行っている。防災士の岩野祥子氏は南極地域観測隊にも参加した女性で、東日本大震災でも精力的に支援を行っている。極地での経験をもとに生命の尊さや互助の大切さをお話された。

いずれの報告もかなり前向きに取り組まれていることが図り知れた。その意識の高さはJIAと防災協定を結ぶ所にも表れているが、さらに意見交換で、葛城市長の山下氏が推進する無電柱化の有効性や、現存する空き家の避難障害など、普段のまちへも視点を向ける提議力にも表れていたと思う。

最後に森岡氏は、風土や特性により起こる災害もその支援もまちごとに違い、各地域の状況に立脚した方策が大切と説かれ、JIA会員を各地域にある防災ネットワークに参加させていただくことをお願いして締めくくった。

会場の教会は大木吉太郎の設計によるもので重要文化財に指定されている。瓦屋根で格子を用いた和の意匠はとても荘厳で、大会として申し分のない会場であった。会場を提供していただいた司祭の井田様に感謝の意を添えて感震リレー(外付けタイプの感震ブレーカ)を寄贈し終了した。



JIA 近畿支部大会 in 奈良 ちらし



会場となった奈良基督教会。大勢の参加者が耳を傾ける



パネルディスカッションの様子



## 復興の現場を通して見え始めた 私たちの社会の課題（前編）

JIA 東北支部（宮城） 都市建築設計集団 / UAPP 手島浩之



東日本大震災以降、さまざまな形で復興活動にかかわっている。いびつなまでに洗いざらい破壊された地域を立て直す現場にかかわっているせいか、ふとした瞬間に、私たちの社会の課題が、それまで当たり前だと思っていたことの中に大きな亀裂のようにほころび始めていることに気づかされる。また、私たちが捨て去った過去のちよつとしたことの中にこれからの未来の芽が見える場面もある。

例えば、今回の震災復興でうまくいっているところと、そうでないところの違いとして、住民と行政の間の距離が重要だと気付かされる。住民や行政がいわゆる「(匿名性の高い)市民」や「お役所」になっていない、行政に所属しているか否かが、地域の中でのただの役割分担でしかないところは、イザというときの地域の底力が恐ろしく強い。行政が個々の住民の実情を把握しているので、適切に制度に誘導できる。(匿名性の高い市民でない)顔の見える住民は、決して無責任な正義を振りかざさない。そんなことを言おうものなら「お前のじいさんはああだったじゃないか!」と簡単に言い返され、周りも納得するのである。こうしたところでは道路の管理も「道路愛護」という名で住民が自主的に管理し、集会所については、運営はもちろん、建設についても普段から資金を積み立てて、住民が主体的につくり上げている。ただの感触ではあるが、被災地を見渡してみても3000人程度を閾値として「(匿名性の高い)市民」と「お役所」

の分離が始まっている気がする。

石巻市北上町のいくつかの集落の高台移転計画の作成支援にかかわったが、いつも同じ課題に直面する。計画の当初、誰もが思い描くように「かつて通りの地域固有の景観をもう一度高台の上に再現したい」と考えた。いかに高級な住宅地であろうと、新興住宅地的な景観を被災地に再現したって意味はない。漁業集落の風土となりわいによって、数百年の時を経て醸成された景観と空気感を、どう高台に再現するか。それこそが私たちに課せられた景観保全の意義であり、それを目標に計画に取り組んだ。

しかし、どうやってもそんな風にはいかない。われわれだけではない。どの被災地でも、やれていることと言えば、新興住宅地のまちづくりのルール程度のこと(壁面後退何メートルや、生垣の推奨)であり、取り組むに値する根本的なことには、誰も、どこでも、なされていない。

私たちが、地域固有の風土を再生し、つくることができなくなった理由はいくつかある。ひとつには「市道認定基準」が、どこの市町にも定められており、自治体がつくる道路はすべてそれに則る必要がある。今回の高台移転集落のような「向こう3軒両隣しか使わない集落道」でさえ住民に決める権利がなく、「道幅

〇m以上、道路勾配〇%以下」を実現するために、工事費が何倍にも膨れ上がり、工期が何年伸びようとも、住民が口をはさむことはできない。例えば、江戸時代であれば、3軒しか使わない集落道はその3軒が分相応に整備し、100軒が使う広場はその100軒の合意で決め、力を合わせて維持管理してきたはずである。そんなふうには、個人と「公共」との間は緩やかなグラデーションでつながっていたはずである。それでこそ「私たちの地域」「私たちの社会」だという自覚を持ち、それに対する義務と責任を誰もが負っていたのである。ところが現在の住宅地は、マンションの住戸と共用部のように鉄扉一枚で個人と公共の間が断絶してしまっている。このような状況の中では、誰もが「せめて敷地の中くらいは自分の好きなようにさせてくれ」ということになり、ハウスメーカーの住宅展示場のような景観が出来上がってしまう。これは、社会と個人の関係の象徴的な縮図だと思う。もはや、われわれの社会は、観光地でしか魅力的な景観をつくり出すことができなくなってしまった。本来の意味での風土(生活や生業、地域社会の仕組みの中から生まれる固有の何か)を新たに生み出す能力を失ってしまっている。上で述べた「道路を巡る公共の話」はひとつの比喩であるが、私たちの地域社会が、(その気持ちを持った地域に限ったことにはなると思うが)地域固有の風土を再生し、維持し、つくり出していけるような仕組みを取り戻すべきである。

上の事例で、「個人と公共の間の分離・分断・断絶」が、私たちの社会が自然に持っているはずのしなやかさを損なっていることを例示しようとした。次回では、これらのことをもう少し掘り下げたいと思う。



左 | 2012年4月にまとめた小室集落高台造成案模型  
右 | 竣工直後の防災集団移転団地(北上町釜谷崎地区)

「ARCHITECT」表紙写真「東海の集落」シリーズ（2015.4～2016.3）を振り返って

## 集落は住民の営みが生み出した合理的な風景だった

近代産業の盛衰を見た岐阜県飛騨市神岡から始まった「ARCHITECT」表紙の集落シリーズは今号をもって一区切りする。12の集落を訪れて、各地域の集落は、人の営みと地域気候の中、その集落民が工夫を凝らして生きるために長い時間をかけて作り、そして都市化に侵されていない、現代に残された風景であることを感じた。東海4県の特徴を一言で言い表すことはできない。南は三重県熊野、あるいは静岡県伊豆半島、北は岐阜県飛騨市、西は岐阜県関ヶ原、東は富士のふもと静岡県熱海にいたる。当然気候も豪雪の白川郷から多雨の紀伊半島など実に多様である。

このシリーズで取り上げた集落は農業、林業、漁業の第一次産業、または街道沿いに発達した運輸やサービス業、または神岡や常滑のように近代産業により人口集積がなされたところで、常滑を除いては都市化の影響が少ない場所がほとんどである。岐阜県の神岡（4月号）は銅や鉛の採掘で一時は世界有数の鉱山となり多くの炭鉱労働者が暮らした。愛知県の篠島（5月号）は漁業の島で住宅の密集度が印象的。静岡県本川根町大沢（6月号）は茶業の集落。うねる茶畑の風景が特徴的だ。岐阜県中津川市の馬籠峠の集落は馬籠と妻籠の観光地に挟まれた鄙びたところだ。木曾三川にある輪中（7月号）の集落はたびたびおこる水災と共に暮らしがあった。川沿いぎざぎざに建てられた民家のある岐阜県白川町の集落（9月号）は護岸崩壊のリスクが共存していた。岐阜県恵那市の坂折の棚田（10月号）は耕作地を得るために大規模土木事業でできた風景。わずかに残ったレンガの煙突がかろうじてかつて「常滑の雀は黒い」と言われるほどの面影を伝える窯業のまち、愛知県常滑市（11月号）。近年まで地続きでも船が唯一の交通手段だった

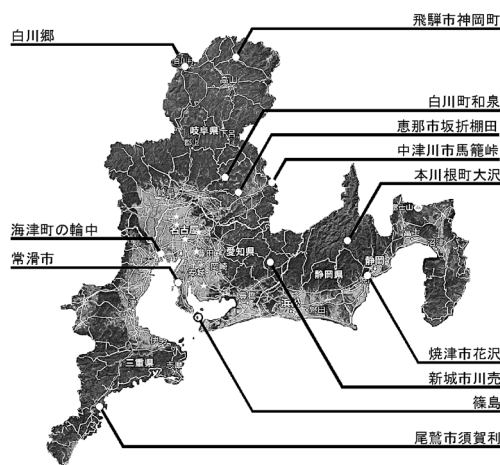
た漁業の集落、三重県尾鷲市須賀利（12月号）。長年孤島状態だったためか映画の撮影地になるほどノスタルジーのある漁村だ。蜜柑やお茶で営みを続ける旧東海道沿いの焼津市花沢の集落（1月号）。戦後稲作転換で始まった梅栽培の新城市川売（2月号）の集落は、今満開の梅の花と観光客を迎えているだろう。そして今月号、世界遺産の白川郷。各集落は共通して、地方に存在し、その地域の住民が生きるために知恵を絞り、労働してきた結果として今の風景があることが感じられる。山間地での稲作は耕作地を得るために棚田がつくられてきた。輪中では水害のリスクにさらされつつも、代々にわたり稲作を行ってきた。漁村の集落の密集度は仕事場である港からより近場に居を求めた結果ではと思われる。街道にできた集落は物流や宿泊などのサービスを生業としてきたのである。白川郷は農業に向かない貧しい山間の集落だったが、養蚕が興ることで今残る合掌造りができた。また、集落の家の作りはその地の産業によると言われる。今はほとんどその姿を消したが、馬籠峠の街道集落ある木曾は林業のまちで、屋根は置石の板葺屋根だった。萱や藁の合掌造りの集落は農業関係の材料でできている。三河地区ではやはり

瓦屋根だ。

そもそも今年度表紙を集落シリーズとしたのは今後この風景は消えてしまうだろうという思いからだ。言うまでもなく地方の集落は過疎化が進んでおり、若者は都会へ、住民は年寄ばかり。馬籠峠や須賀利は限界集落と言っている。篠島の観光不振、坂折の農地放棄などでも各地方集落に住む人は減少し都市へと流出している。社会的に一次産業から二次、三次へと労働力がシフトする中、一次産業従事者が主な住民だった集落はフェードアウトしてゆくのは寂しくもあるが自然な流れでもある。

また、比較的都市に近く、通勤可能な集落では限界に至らなくともその風景は浸食されつつあるのが見られる。麓の屋波が美しい集落に突如現れるアルミサッシとサイディングと太陽光パネルの住宅や、はたまたスカイラインを水平に切り取ったフラットルーフの家。物流が発達した現代では、全国津々浦々同じ材料が使われ、陽の当たる場所なら太陽光パネルを置き、都市に事務所を構える雑誌住宅特集に洗脳された設計者が「作品」を置いてゆくのである。

集落はその地に生きる人たちの合理的結果として暮らしの風景がつくれ、今やその合理性が失われるとともに消滅しつつある。そんな集落の風景を懐かしみ、消えゆく現実に寂しさを覚えるのであるが、歴史という価値は将来に渡って維持しなくてはならないものだと思う。白川郷の世界遺産登録が観光産業をもたらしたことは極端にしても、単にノスタルジーとしてではなく、集落の歴史価値が住民生活の支えとして、暮らしと風景が将来に渡って受け継がれ続けるといいなと思うのである。



紹介した12の集落

生津康広 | 生津建築設計室アーキハウス





## 米国エリアマネジメント視察に 参加して

川本直義 | 伊藤建築設計事務所



今、名古屋でも都心部の地域づくりの手法としてエリアマネジメントが注目されているが、その先進国であるアメリカのエリアマネジメントの視察のため、全国市街地再開発協会が企画した「第48回海外住宅・都市開発事業視察」に参加した。2015年9月29日から9日間の日程で、ミルウォーキー、シカゴ、ニューヨークを視察した。

アメリカのエリアマネジメントの仕組みとしては、BIDが知られている。BIDとは、Business Improvement Districtの略で、美化、治安維持、イベント開催などさまざまな事業を行うシステムであり、設定された地区内の資産所有者達から強制的に行政が負担金を税として徴収し、それを地区の資産所有者達によって組織される非営利のBID団体に還元する。BID団体はその資金を使ってさまざまな事業を展開し、地区が安全で快適なものとなり、資産価値が上がるという仕組みである。受益者負担によるまちづくりである。

まずミルウォーキー市を視察した。人口60万人程度の都市であるが、BIDを積極的に活用して、都市の魅力を向上させている。荒廃した地区をBIDの活用により、安全で美しい街に生まれ変わらせたり、市街地を流れる川沿いを整備し市民の憩いの空間を創出したりしている。また、ミルウォーキー市はTIFというシステムも積極的に活用している。TIFとは、Tax Incremental Financingの略で、特定の地域の再開発資金の一部を、開発後に資産価値が増加することにより得られる税の増加分を財源として充てて行う事業の仕組みである。市当局の都市経営の手腕

により、魅力的な都市が実現していることがわかった。

次にシカゴ市を視察した。人口約270万人の大都市である。BID団体は、植栽や清掃などの美化活動はもちろん、ホームレスへの対応など社会事業にも積極的に取り組んでいる。また、空洞化していたループ地区内に人を増やすため、大学を誘致し多くの若者が暮らす街にしている。

最後の視察先はニューヨーク市。タイムズスクエアは多くの人が集まる場所であるため、BID団体が道路上で広告や売店などの収益事業も行い活動資金にし、セキュリティのパトロールを強化したり清掃を行ったりしている。ブライアント・パークは、以前は麻薬の売人があるような犯罪多発の危険な公園であったが、BID団体が公園を管理運営することで、市民の憩いの場となり周辺のビルの資産価値も上昇している。

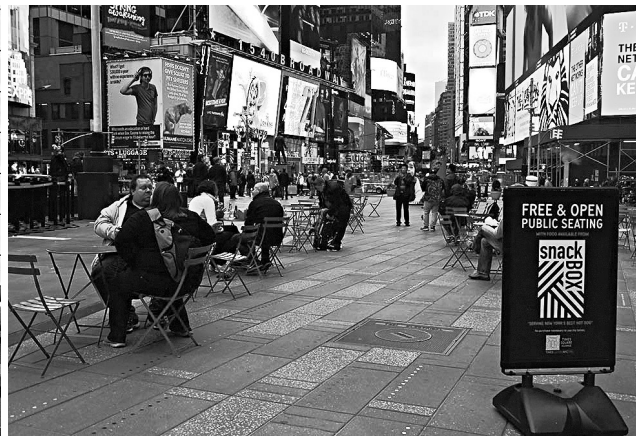
ダウンタウンのBID団体から詳しく活動内容を聞いたが、アメリカも日本と同じような問題を抱え、人々の考え方や行動はそれほど変わらないものだと感じた。例えば、縦割り行政による手続きの煩雑さはニューヨークでも同じであるとか、民間団体が行政からの天下りを受け入れているから手続きがスムーズにいくとか。

アメリカが日本と違うところは、地域づくりに取り組むメリットを明確にし、そのメリットを生み出す仕組みを法律で機能させていることだ。アメリカでもまちづくり団体は非営利団体ではあるが、無償で働く市民ではなく有給のスタッフである。その財源には、対象地域に課せられた特別な税金が充てられている。地域づくり活動によって資産価値が上昇することが前提となった仕組みである。しかし、全ての地域の資産価値が上がることは考えられないだろう。つまり、地域格差を生んでしまう仕組みを進めているとの見方もできるのではないかと。アメリカは地域も競争なのだろう。

日本の地域社会では、昔から続く良き形の共同体を崩してまでBIDを進める必要はないと思うが、大都市中心部などで実験的な取り組みをもっと進めていき、日本版のBIDの仕組みを確立していくのが良いと思う。



ミルウォーキー リバーウォーク整備



ニューヨーク タイムズスクエア地区

## 災害支援・建築家資格制度ほか報告事項多数

本部理事 鳥居 久保



第231回理事会は2016年1月19日(火)13時30分～17時00分、建築家会館1階大ホールにて開催された。出席者は会長以下、理事23名、監事2名、事務局2名、オブザーバー3名(欠席理事1名)。

### 【審議事項】

#### 1.入退会承認の件(事務局)

1)新規入会希望:正会員5名、準会員:ジュニア1名、協力会員:個人1名、法人7件、種別変更:シニア1名、退会希望:正会員11名、ジュニア1名、個人協力会員2名、法人協力会員4件

2)会員数4,005名(1月19日現在、会員総数約5,500名)

#### 2.「JIA事業活動助成」採択の件(慶野正司公益事業委員会委員)

2015年度分の採択事業が4事業(三重地域会の「建築ラナー2016」を含む)、2016年度の事業の予約分として4事業が承認。継続年数は2年を限度とする。

#### 3.災害時支援活動規程の件(筒井専務理事)

規程案は総務委員会が起案、災害対策会議が確認。地震に限定しない規程とするが、支援活動は建築物の被害に特化。地震災害の場合、震度6弱以上で災害対策本部が立ち上がり、地震以外の場合は災害救助法に指定された被災地域の建築物に限定。本部が甚大な被害があった場合、近畿が本部となる。本部、近畿が同時に被災して機能しない場合は、会長判断。

#### 4.災害対策積立資産運用規程の件(筒井専務理事)

第4条の2項はファンドの支出管理を行うのが担当委員会とする条文。一方、第5条2項は当該災害に支出するか否かの承認を会長がするという条文で区別される。第5条2項①は「災害対策本部及び現地災害対策本部に係る費用」とし、以降の文章は削除。

#### 5.登録建築家審査マニュアル・評議会運営マニュアル改正の件(足立職能・資格制度委員長)

建築家資格制度において登録建築家の認定機関の外部性を意識して、理事会決定後に認定評議会が最終承認の形を取っていた。今後は承認の後先を「認定評議会―理事会」の順番とする。そのうえで登録建築家審査マニュアル・評議会運営マニュアルの改正案が足立委員長より提議された。

・審査マニュアルのB-05-⑤をUIA基準に則し「独立性」を「第三者性および自律性」に。

#### 6.苦情対応に係る職責委員会付託の件(筒井専務理事)

関東甲信越支部「薪ストーブの煙害」と九州支部「床下の水溜り、水漏れ」については職責委員会として懲戒の必要性なしとした審議結果に理事会が承認。

#### 7.活動事業組織体の件(森副会長)

あらためて公益事業体(仮称)として独立させる。JIAの受託事業であり、最長5年程度の時限事業体として位置付け。会計的には財務事業管理委員会が管理。「近現代建造物緊急重点調査事業対応事業体」「文化財修復塾事業体」「文化財ドクター派遣事業体」の3つの事業体が承認。

### 【報告事項】

#### 1.アクションプラン特別委員会中間報告(六鹿正治アクションプラン

委員長)

六鹿委員長(次期会長予定者)より中間報告。これに対し「常置委員会との連携が図れているのか」の質問があり、芦原会長が基本的スタンスを説明。「問題解決のミクロな場面ではなく、フリーな立場で委員会を運営してもらっている。その中からJIAの新たな糸口をアクションプランとして提言してもらおう」とした委員会の基本的特性の説明があった。

#### 2.HP入会案内について(鈴木利美広報委員長)

準会員制度を盛り込んだ入会案内ページ完成。2月に公開予定。入会手続きのフローを会員種別ごとに整理。「JIA正会員は同時に登録建築家であることが必要となる」旨、「入会手続き」に明記。組織の体制を明確化する。

#### 3.「JIA建築家大会2016大阪」について(松本副会長)

2016年10/27～10/29 大阪市中央公会堂他

#### 4.建築相談活動規程の件(筒井専務)

各支部、各地域会における建築相談には統一された枠組みがなし。建築相談活動を共通化する規程を整備。

#### 5.東松山市コンペ問題の経緯・経過報告の件(連理事)

自身が参加したコンペで最優秀を取ったが実施設計の場が担保されなかった。コンペ実行委員会及び東松山市へ異議申し立てを行う。

#### 6.コンペ・プロポーザル方式による選定業務支援リーフレットについて(連理事)

JIA主導でコンペ・プロポーザルを運営する場合の担保すべき内容や質・手法をリーフレットに基づき説明。

#### 7.活動及び業務執行状況報告(筒井専務)

##### ①公共建築発注方式の多様化への対応

公共建築設計懇談会・五会研究会などで多様化する発注方式にどう対応し次世代生産システムとして確立していくか議論。

##### ②新国立競技場問題への対応について

今回のコンペに発注者は何を求めたか、また案の選定に対し今まで以上に丁寧な説明をすべきこと、をJSCに対し要望。

##### ③基礎杭問題への対応について

工事管理ガイドラインが2月発行。

##### ④正会員全員登録建築家キャンペーンについて

##### ⑤ARCASIA大会招致について

##### ⑥建築家賠償責任保険事故例集発行の報告

##### ⑦マンション修繕工事請負契約約款発行について

##### ⑧近現代建造物緊急重点調査事業について

##### ⑨東京都の発注方式の変更について

軽微の設計における見積合せを見直し最低制限価格のある入札方式に移行する。

##### ⑩2016年度事業計画・予算について

支部、地域会の2016年度予算は2月10日までに本部に提出。

##### ⑪後援名義承認の報告(会長専決事項)

##### ⑫台湾褒章への推薦の報告(故 郭茂林氏)



# 東海支部役員会報告

最近の新聞で「震災崩落建築士に有罪」の見出しを目にしました。東日本大震災で大量量販店の駐車場スロープが崩れ8人が死傷した事故で、一級建築士に対し有罪判決が言い渡された記事です。ここで気になるのが、過去の実例・経験に何の疑問も感じずにそれらを採用した設計に時々直面するということで、特に小中規模建築ではありがちです。更に実例・経験から外れた構造計画を取り入れると過去の実例を優先する発言をする人がおり、そういう事例があるということです。起こってみて後で気がつくパターンの一例に思われてなりません。実例から学ぶことは大切ですが、良しとしないこともあるので、感覚のバランスを養い、検証も忘れてはならないという教訓として受けとめました。

登録建築家の制度が新しくなったの再登録が実施されました。あらためて登録建築家とは何かについて真摯に向き合わなければいけないと感じます。JIAは正会員+登録建築家を目指すことになりましたが、公益保護の観点から早く一般市民に分かりやすく説明できるようなものをつくってもらいたいものです。

尾林孝雄 | 尾林建築構造設計事務所



日時：2016年1月29日（金）16：00～19：00

場所：昭和ビル5階 JIA 東海支部事務局会議室

出席者：支部長、本部理事2名、幹事10名、監査2名、オブザーバー 8名、  
欠席者1名

## 1. 支部長挨拶

久々に理事会が集合形式でありました。いろいろありますので、報告を聞き理解と議論をしていただきたいと思います。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

①第231回理事会（1/19）（鳥居）

②第29回フェローシップ委員会（1/7）（谷村）

- ・ウェルカムオフィスの想定される具体例をまとめ、4月から受け入れを行なえるよう準備する。オープンデスクとの違い、長所短所をまとめてチラシにする。
- ・フレッシュマンセミナーに関して反省点などを含めて簡潔にまとめ、今後の活動の参考に。基本的には年1回とし、10月頃を目途に年間計画を出す。

③第8回第9回広報委員会（12/15、1/21）（奥野）

- ・JIAロゴ：HPに掲載。ロゴデータは本部事務局に問い合わせること。
- ・広報委員会のミッションを確認するべく資料の提出があった。

④第25回公益事業委員会（1/15）（鈴木利）

- ・公益事業推進のための事業活動助成費の配分採択審査。
- ・2015年度の活動ミッションについて
- ・2015年度給付予算総額は350万円とする。

⑤建築家資格制度+職能・資格制度合同委員会（1/18）（植野）

- ・審査マニュアル、評議会運営マニュアル、審査報告書書類の検討。
- ・支部評議会運営費、支部委員会活動費について協議。
- ・各支部で呼び掛け文書の送付などを実行。

東海支部ではARCHITECTへの折り込み、非登録建築家の正会員へはDMを送付。

- ・再登録対象者へは本部からDMを送付。
- ・「全員登録建築家になる」でも申請・審査が必要。
- ・なぜ登録建築家かの問合せについて回答を本部で用意している。

⑥本部CPD評議会（1/26）（塚本）

- ・最近では認定プログラムの申請が100件を超え、事務局より認定作業の合

理化案が提案された。

- ・WEBによる認定プログラムの視聴に対応したシステム改定案が提示された。4月運用を目指す。

⑦本部財務委員会（1/26）（小田）

- ・JIA 事業活動助成採択結果報告
- ・復興支援費「みやぎボイス2016」について
- ・海外旅費規程について
- ・2016年度予算案の考え方について

## (2) 支部報告

①支部総務委員会（1/29）（見寺）

- ・支部会費を取ることは現状では見送りとした。

②第23回東海学生卒業設計コンクール2016（吉川）

- ・各地域の大学への働きかけをお願いしたい。

## (3) 各地域会からの報告（各地域会長）

静岡、愛知、岐阜、三重の各地域会より報告あり。

## 3. 議事

### (1) 審議事項

①入会申込書正会員「内藤正隆（A）」（見寺） 承認

入会申込書法人協力会員「㈱TMC（A）」「㈱日新工業（A）」（見寺）承認

- ・CPDの説明をしてもらいたい（塚本）

②事業報告書JIA 東海支部大会2015特別委員会（11/13）（谷村） 承認

・大会登録者 163名、海空ツアー参加者 36名、レセプション参加者 77名。

③事業報告書JIA 東海支部設計競技2015（矢田） 承認

④2016年度事業計画および、予算案について（車戸・矢田） 承認

### (2) 協議事項

①入会申込書・手続き、他について（見寺）

- ・入会手続き手順と担当案の一覧表

・申込書書式（専門会員、シニア会員、ジュニア会員、学生会員、個人協力会員、法人協力会員）

②アーキテクト送付先について（牧）

- ・各地域会で送付先のリストを確認し、支部へ報告する。

### (3) その他

①リフレッシュセミナー参加者について（久保田）

- ・愛知地域会から2名、三重地域会から1名の報告があった。

②フェロー会員推薦について（久保田）

・現在、愛知地域会から4名の推薦者が出ている。承認されれば計5名のフェロー会員となる。

③退会届：正会員「戸川富夫（A）」「野崎庸之（A）」「清水健二（M）」

シニア会員「藤橋盈好（A）」（見寺）

法人協力会員「リンナイ㈱（A）」（見寺）

④「JIA 建築家大会2016大阪」大会プログラム募集（久保田）

⑤2016年度支部役員会日程（案）（2016.7まで）（久保田）

### (4) 監査所見

[中村監査]

アルカシアなどの国際的活動に会費収入の何%使われているか、本部財務委員会にチェックしてもらいたい。

[山田監査]

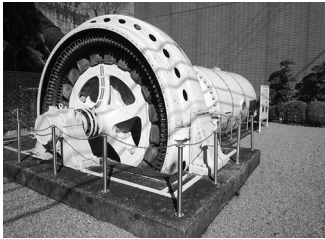
支部大会の監査をさせてもらったが、企画が良かったと感じた。

登録有形文化財

長良川発電所本館、正門、外堀、湯之洞谷水路橋



長良川発電所本館



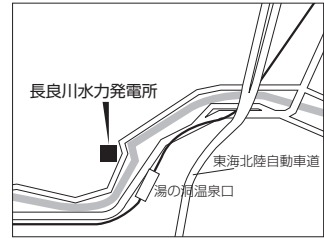
ドイツ製水車



水を湛える水路



湯之洞谷水道橋



■紹介者コメント

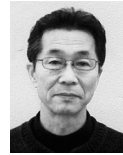
長良川鉄道湯の洞温泉口駅を降りそのまま長良川に向かって歩くと立花橋にでるが、その対岸に赤茶色の建物が目に飛び込んでくる。その長良川水力発電所は明治43(1910)年に竣工し、一部は改修などがされたり、発電量が減少したりはしているものの現在も現役で稼働しており、多くの箇所が当時のまま残されている。煉瓦造の本館は威風堂々としており、碧き長良川や山並みなどに溶け込んだ景観は見ごたえがある。かつては瓦屋根であったが今は葺き替えられており、その名残りに鬼瓦が残されている切り妻形式の建物である。正門、外堀も当時のまま残され、建設当時のドイツ製水車も展示がされており、その巨大さは圧巻である。また国登録有

形文化財であるが平成19(2007)年に近代化産業遺産にも登録されている。

山路を登り取水口に至ると水路の水は満々と流れ、今も生きている発電所の実感がある。その水路をたどると湯之洞谷水路橋に至る。それは時空を経たレンガ造の味わいがあり、山並みの中に溶け込み光と影が織りなす深みのある姿に時を忘れて見入ってしまう。そこにはル・トロネ修道院を彷彿させる空間がある。さらにもう一つの下須原谷水路橋を探し歩いたが見つげ出すことができず自然の営みを感じ、アンコールワット遺跡のように森の中に呑み込まれている思いがして、何かロマンを感じとった。発電所本館、取水口、水路、水路橋が森の中を駆け巡り連携した景観は、見る人に歴史散策するこ

との楽しさ、味わいを与えてくれる。

所在地：本館、正門、外堀 | 岐阜県美濃市立花字木の末844-1-1-1  
 湯之洞谷水路橋 | 美濃市立花字湯ノ洞～字長平  
 所有者：中部電力株式会社岐阜支店  
 建築年：長良川発電所本館、正門、外堀、湯之洞谷水路橋明治43(1909)年  
 構造・規模：本館 | 煉瓦造地上2階地下1階 正門 | 煉瓦造、外堀 | 煉瓦造 湯之洞谷水路橋 | 煉瓦及びコンクリート造5連アーチ橋、橋長62m、幅8.0m  
 アクセス：本館 | 長良川鉄道 湯の洞温泉口駅下車徒歩5分 湯之洞谷水路橋 | 同駅下車徒歩20分  
 登録番号(国登録有形文化財2000年12月20日)：  
 本館 | 21-0033、正門 | 21-0034、  
 外堀 | 21-0035  
 (国登録有形文化財2001年09月14日)：湯之洞谷水路橋 21-0041



鈴木祥司 | アトリエ祥建築設計

データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

高野山真言宗 大福寺



本殿



福助池



仁王門



庫裡



■発掘者コメント

大福寺は平安時代貞観17(876)年に開創し「播教寺」と称した。現在の寺より約8キロの愛知県境、扇山山頂(海拔500m)にあり、現在も扇山林道沿いの山頂近くに跡地が保存されている。鎌倉時代承元3(1210)年、現在地に移され「大福寺」と改称された。境内は海拔40mの位置にあり猪鼻湖、景勝地瀬戸を眺望できる。境内には室町時代の築庭と思われる「浄土苑」と称す庭園がある。鑑賞式兼回遊式の庭園は、周囲の自然の山を取り入れ、滝を備えたダイナミックな庭園となっていて県指定文化財。元禄時代に茶祖山田宗偏が来住愛好した名園で、池は福助池という。鎌倉時代、当地に移されたときは数十の子院を持つ大寺院だったと言われ、仁王門(県指定文化財)は本堂の数百メートル手前にあることから

も、かつては相当の寺域を誇ったお寺であったことがうかがえる。仁王像は傷みが進んでいるが、なかなか勇壮なバランスのとれた像で、鎌倉期の作といわれる。今回、特に紹介したい建物は庫裡である。先代のご住職が戦後、愛知県豊橋市二川の大きな製糸工場の敷地内にある福利厚生施設木造2階建ての建物を買い受け、この地に移築して庫裡、檀家の集会施設としてリノベーションした(豊橋の製糸業の特色は玉糸製糸。安価な玉糸から糸を取り出す方法を、群馬県出身の「小淵志ち」が苦心の末発見、二川の「糸徳製糸工場」で本格的な製糸業を始め、二川・豊橋は「玉糸の町」としてかつては有名)。昨年11月にご住職の許しを得て、建物の調査測量をしたので、今後この建物(産業近代化遺産)を追跡調査していきたいと思っている。

室町時代から大福寺に伝わる特製の大福寺納豆は、中国(明時代)僧から伝承され、足利、今川、豊臣、徳川家歴代将軍に献上されたもの。「浜名納豆」という名は徳川家康が命名したと言われる。特に正月には将軍家へ諸大名参賀の折り祝酒にはなくてはならぬものようであった。薬味には山椒の中皮カラカワが入れてあり、茶に酒に飯に添えて妙味、栄養豊富な保存食である。ぜひ一度ご賞味を。

所在地：静岡県浜松市北区三ヶ日町大福寺  
 アクセス：天竜浜名湖鉄道「三ヶ日駅」下車レンタサイクル20分  
 東名三ヶ日インターより車で15分



富田正行 | エム・プロダクツ



## Bulletin Board

### 持ち出し役員会・見学会・講演会 JIA 愛知 西三河地区会例会

CPD 単位申請中

3月4日(金)にJIA 愛知 西三河地区会例会を豊田市で開催致します。とよたエコフルタウンでの見学会・講演会(CPD2単位予定)、逢妻交流館での愛知地域会役員会(もしくは豊田市美術館見学)・講演会(CPD1単位予定)、豊田市駅付近にて懇親会と充実した内容になっておりますので是非ご参加ください。

#### ■スケジュール

平成 28年3月4日(金)13:15~20:30

13:15 とよたエコフルタウン・パビリオン前に集合

13:20~スマートモビリティ、ミライ、ウイングレット試乗、  
HEMS 見学

14:10~□講演会「ミライのフツーを目指そう 環境先進国とよた」

豊田市役所 環境モデル都市推進課 酒井氏

□講演会「北街区再開発について」(15:00まで)

豊田市役所 都市再開発課 恩田氏(予定)

15:00 逢妻交流館、豊田市美術館へ各自移動

15:30~逢妻交流館にて愛知地域会持ち出し役員会(17:30まで)  
もしくは豊田市美術館見学(役員会に参加しない方々は自由見学)

17:30~□講演会「スマートハウスと HEMSの開発等について」(逢妻交流館にて)

デンソー事業開発室 金森淳一郎氏(18:30まで)

18:30 豊田市駅へ各自移動

19:00~懇親会(20:30まで)

会場 1109(いっとく)予定

予算(税込)5000円程度/人 TEL 0565-37-1057

※お車で越しの方は市営元城駐車場をご利用ください。

#### ●とよたエコフルタウン

〒471-0024 愛知県豊田市元城町 3-11

TEL 0565-77-5669 <http://toyota-ecofultown.com/access/>

#### ●逢妻交流館(設計:妹島和世)

〒471-0049 愛知県豊田市田町 3-20

TEL 0565-34-3220 <http://ph-toyota.jp/guide/aizuma/>

問合せ先: TEL 052-263-4636

(公社)日本建築家協会 東海支部 愛知地域会事務局

## 地域会だより

### <東海支部>

- 12/3 支部建築家資格制度委員会
- 12/18 支部大会実行委員会第17回
- 1/29 支部総務委員会・支部大会委員会(監査)・支部役員会
- 2/26 支部役員会
- 3/25 支部役員会

### <静岡>

- 12/10 12月静岡地域会定例役員会(拡大)の開催。忘年会
- 1/5 建築団体による静岡県知事への新年挨拶に参加
- 1/14 1月静岡地域会定例役員会の開催
- 1/22 平成28年建築関係団体新年会を共同開催
- 2/10 2月静岡地域会定例役員会の開催
- 3/3 3月静岡地域会定例役員会の開催
- 4/25 2016年度通常総会の開催

### <愛知>

- 11/28 愛知・事業委員会 猪高小学校建築教室
- 12/2 賛助会企画CPD研修 見学会(LIXIL)
- 1/15 賛助会商品PR会+新年会
- 2/3 愛知賛助会役員会
- 2/4・10 JIA実務セミナー 古澤弁護士を招いて(モンスタークライア

ントとのトラブルに備える)

- 2/15 愛知役員会+JIA・賛助会CPD研修
- 3/4 愛知役員会持ち出し(豊田エコフルタウンおよび逢妻交流館)

### <岐阜>

- 2/5 JIAの窓、岐阜地域会 第6回役員会 開催  
場所:コア2階(岐阜市美殿町37)  
講演:一部「まちづくり」(栗本真老氏・車戸慎夫氏)  
二部「CPDについて」(藤井孝一氏)
- 4/27 岐阜地域会 通常総会・懇親会開催(17:00~20:00)  
場所:ホテルグランヴェール岐山  
総会:5F乗鞍の間 [懇親会]5F飛翔の間

### <三重>

- 1/23~2/7 建築ラリー 2016  
建築ウォッチング「建築家と松阪を歩こう」(1/23)  
建築ウォッチング「建築家と四日市を歩こう」(1/30)  
建築文化講演会・建築シンポジウム(2/6)  
「被災地写真展示」写真師・松原豊氏ほか  
建築ウォッチング「建築家と伊勢を歩こう」(2/7)
- 3/11 第8回例会、第7回役員会(三重県総合文化センター)

